証明書コンビニ交付率は

Q 証明書コンビニ交付率の目標は。また、利用の多い年齢層は。

A 交付率は現在の５％台から10％台に上げたい。利用の多い年齢層は41歳から45歳までである。

防災リーダーの育成は

Q 地域防災活動の担い手である自主防災組織などのリーダー育成のために、中・高校生の受講を推進すべきでは。

A 中・高校生の参加も可能だが、三木市の県広域防災センターでの受講は、学業もあり難しいところもある。

本を読む習慣を

Q 図書館で本を借りる人が減っている。読んだ本の記録ができる読書手帳をもっとPRしてはどうか。

A 若年世代で、本を借りなくてもパソコン・スマホで気楽に読める時代になっている。指定管理者と検討したい。

▲楽しく英語を学ぼう！

▲読書手帳、持ってる？

小学校の英語活動は

Q 2020年度から小学校の担任教師が英語の授業をすることになるが、教師への研修や指導は。

A 教育研修を毎年行っている。今年度から、小学校外国語教育を指導できる元教員を配置している。

民生委員の負担は

Q 民生委員への相談件数が、毎年増加している。負担増になっていないか。

A 研修会への参加や住民の相談を受けておられ、積極的に活動されている。

学校園での健康診断は

Q 小中学校・幼稚園の健康診断結果において、２次検診を受ける児童が多いが、その後の確認や指導は。

A ２次検診後は各学校園で管理しており、児童などの健康が確保されていると考える。

町内企業の育成は

Q 町が発注する工事において、町内業者に限定した工事をもっと増やすべきでは。

A 町内業者の入札参加条件は緩和している。

運転免許証自主返納は

Q 高齢者の思い、決断に敬意を表し補助金の増額は。また、各種サービスが受けられることを広報すべきでは。

A 補助金の増額は考えていない。町のホームページに掲載しており、広報への掲載は今後検討する。

庁用バスの運行は

Q 町のマイクロバスは120日の契約に対して、活用実績に開きがある。更に活用を広げられないか。

A 今後は、コミュニティ委員会での防災研修などでの活用も検討していく。

▲まず体をほぐそう！

▲活用範囲を広げたい。

はつらつ広場へ送迎は

Q 介護予防を目的とした「はつらつ広場」への送迎が無くなり、行きたくても行きにくい高齢者への対応は。

A 制度改正により送迎はできない。福祉会館と４コミセンで実施しており、誘い合わせて参加してほしい。

ふれあいの家の今後は

Q ふれあいの家は町民の利用が少ない。利用者一人当たり多額の補助をしていることになるが、今後の考えは。

A 来年度、指定管理者の契約期限を迎える。朝来市との関係などを考慮しながら、今後のあり方を検討する。

防災ベッドの普及を

Q 防災ベッド設置助成は0件である。設置することで命が守られるベッドであり、耐震診断の際に説明し普及を。

A パンフレットによる啓発をしているが、防災ベッドではなく住宅改修を選ばれている。